HOKKAIDO UNIVERSITY

| | |
|---|---|
| Title | 年度報告プログラムの活用化への試み |
| Author(s) | 桝本, 浩志; 小宮, 圭示 |
| Citation | 北海道大学演習林試験年報, 7, 51-52 |
| Issue Date | 1990-02 |
| Doc URL | https://hdl.handle.net/2115/72828 |
| Type | departmental bulletin paper |
| File Information | 1988_2A-7.pdf |

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

# II A—7　年度報告プログラムの活用化への試み

天塩地方演習林　桝　本　浩　志
〃　　小　宮　圭　示

## 1. はじめに

現在、演習林には「演習林森林情報処理システム」と呼ばれる様々な森林情報を処理することを目的としたシステムが作られており、そのシステムの中では販売プログラムをはじめ、給与プログラム・年度報告プログラムなどが開発済みで使用されている。

この開発済みプログラムの運用方法については各林様々だと思われるが、天塩演習林ではこの入力方法について一つの試みを行った。

今までのデータ処理について言えることは、コンピューターの使用がある特定の熟練した人間に偏っていたというのが現状であったように思われる。データ処理については、本来より多くの人に理解され使用されることが理想であり、その理想に一歩でも近づけ活用出来ることが必要ではあるが、誰もがコンピューターを道具として活用するには熟練が必要となる。しかし、業務処理プログラム等の使用に関してはさほど熟練の必要がなく、多くの人が使用出来るものであり、たとえば作業日報及び物件費のデータ入力などもそれであって、コンピューター使用の第一歩であるといえる。

今回は、昨年度から当林で試みているデータの入力方法について報告する。

## 2. 方　　法

まず第一に、いままでコンピューターは二階に置かれ一階の事務室と離れていたため、一日の全データを入力表に書き込み一人で入力する方法では即日の入力が難しかった。そこで事務室の一角にコンピューターを設置することにより、誰もがいつでも気軽に使用出来る環境を作ることとした。

第二に、入力作業については話し合いの結果、より多くの人にコンピューターを使って作業をし、データの流れを知ってもらうため分担入力方法とした。したがって、作業日報のデータ入力については各事業担当者が入力することとなった。

物件費のデータ入力については作業日報同様に各担当者が入力できることが理想ではあるが、支払い確定後の入力となるため一度にデータが集中し、集計による各事業との関連もあり能率等の問題から一応入力者を特定し、データ入力を行なうこととした。

なお、物件費の入力について当林では物品請求書に品名等の必要事項と、事業・項目・細目のコード化したものを記入し、支払い確定後に物品請求書の全品名をコード化しデータ入力をしている。したがって入力の際に品名コードの検索に時間がかかる等の問題があり、より簡単に入力できる方法として試験的に品名を文字による入力の方法としている。

## 3. 結　　果（図参照）

作業日報入力については、各事業担当者が即日入力を原則とし、翌日全てのデータチェック、訂正を係員が終えて作業日報の確定データとする。さらに月末あるいは翌月はじめに月報データ

をチェックし、集計したデータにより給与計算がされることになる。以上の入力作業の流れからデータがリアルタイムに入力されることによって作業日報データから給与計算という本来の流れが可能となった。

物件費入力については、支払い確定後速やかに事務補佐員によってデータ入力され、帳票が出力される。その後各事業担当者の確認によりデータチェック、訂正を終えて確定データとなっている。データがリアルタイムに入力されることにより帳票出力も速やかに行われるため、データの利用も増え入力作業の流れとしては概ね軌道にのったと思われる。

## 4　ま　と　め

当初の目的であった、より多くの人に使用され、利用されたいとの考えについても最近ではキーボードの前に座る人が増えたことは確かである。

最初は机の隣に並んだコンピューターに違和感があったものの次第に慣れてきてコンピューターに対する抵抗意識も少しずつではあるがとりのぞかれてきた。

操作方法についてはマニュアルを片手に入力が始まったが、当初はまだ不慣れなため入力ミスや操作ミスが相次ぎ悪戦苦闘を繰り広げた人もいたようだったが、次第にキーボードを打つ手が早くなり、打つ顔に余裕さえ感じられるようになった。しかし、木材販売システムの使用に関してはまだ特定の人間に頼っているというのが現状である。今後の課題として言えることは、より多くの人がコンピューターを自分の道具として使いこなせることであり、天塩演習林ではこれからもデータ処理についてより一層理解を深めみんなが使用し、利用できる方向を目指したい。

最後にこれから電算化が益々進みゆく時代にあり、コンピューターは我々にとっても必要不可欠なものとなるであろう。したがってこれからの私たちに言えることは一人一人がコンピューターに慣れ親しみ活用することが要求されると思われるが、環境等色々な問題があると思われ、コンピューターの活用についてはこれからも職場及び個人の努力が必要とされるのではないだろうか。

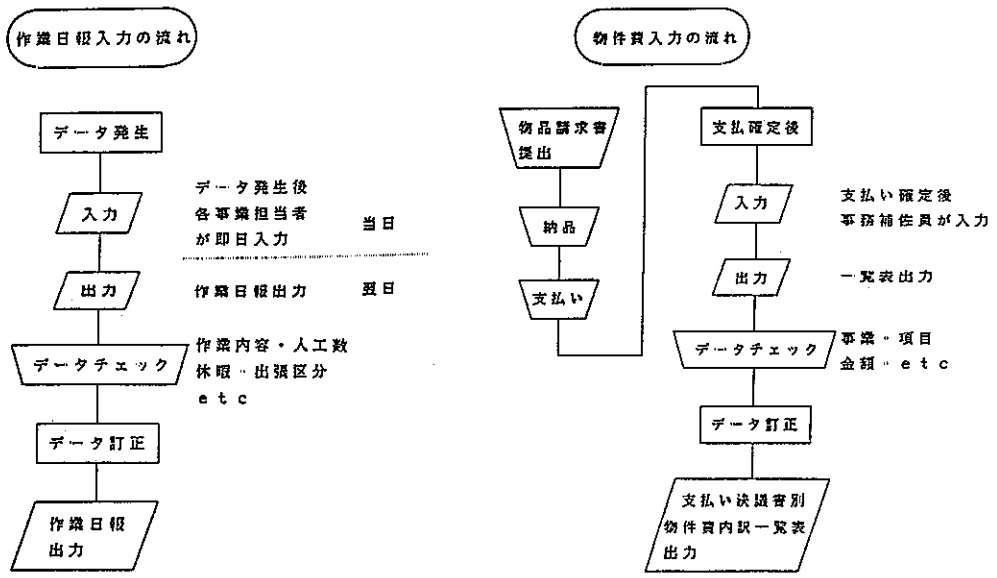


図　作業日報・物件費の入力チャート